ふりかえり号は別立て4ページです

あの手この手で考えて、あの手この手で問題解決！

あの手この手

大和市民活動センター[拠点やまと] 第 26 号 2009 年 3 月 30 日発行

やまとの風景たち 4 回シリーズ 第4回目 上和田／薬王院の双盤念仏 **絵と文＝柴田 豊（大和市役所職員）**

上和田の信法寺にある薬王院は、鎌倉幕府の武将、当時地頭であった和田義盛が眼病を患い、薬師如来に祈願したところ、全快したことがきっかけで建てられたと伝えられています。

毎年9月8日の縁日には、眼病に効能があるとされる「薬師芽生姜」が売られ、無病息災・家運隆昌・五穀豊穣を祈って双盤念仏が演奏されます。

表紙絵 4 回シリーズを終えて

4回にわたり統一感なく、「やまとの風景」を取り上げてきました。
有名観光地のような派手で目を見張る風景ではなくとも、その町ならではの風景を、その風景が作られた背景や歴史、置かれている状況などとともに知ることは、町への思いに良い変化を生むことがありますよね。短いお付き合いでしたが、ご覧くださってありがとうございました。（柴田）

［拠点やまと］への応援ありがとう＆来年度に向けて

みなさま、応援ありがとうございました。
[拠点やまと]は大和市における市民活動を広げ支援する市民活動団体です。
今年度は補助金交付団体として大和市民活動センターの管理運営を行ってきましたが、事業部門は拠点やまとメンバーによるインカインド(無償による市民活動)で総時間数、約 2,560 時間(11ヶ月実績)、神奈川県の最低賃金(766 円/h)に換算すると約 200 万円のボリュームになりました。これからもセンター機能を拡充させていくためにはマンパワーが必要です。[拠点やまと]の活動に多くの市民が参画してくださることを願っています。

（拠点やまと会長 関根孝子）

ホームページアドレスが変わりました
旧URLからもジャンプします。“お気に入り”に入れてください。

新 URL は www.kyodounokyoten.com です

＜同封されているご案内等＞

・第⑳回 4/29(水)実施の連続共育セミナー「市民活動センターのきのう・きょう・あした」のご案内

市民活動センターは２００９年４月から［拠点やまと］と市の協働で運営します

2 月 25 日(水)大和市役所において協働事業等検討結果報告会が開催されました。

提案発表会→調整→意見交換会とプロセスを経ての 8 件の提案に関する市の検討結果は「協働事業として推進する」 7 件、「協働事業として推進しない」 1 件でした。(右図参照)

[拠点やまと]も 2009 年度からは協働事業者として、下記の役割を持って大和市民活動センターを管理運営していきますので、よろしくお願いいたします。

①市民活動を行う団体や個人に対して、開かれた「センター」を目指します。
②市民等の息づかいを捉えるアンテナの役割を果たします。
③市民活動の裾野を広げるさまざまな事業を試みます。
④徹底した市と「センター」と市民活動団体との情報の共有・公開と共育の視点を持ちます。
⑤市民参加による事業展開を持続可能にするために、社会資源を発掘し、活用した運営方法を検討します。

協働事業として推進する提案

○市民提案型
- ・CAP(子どもへの暴力防止)プログラム提案事業
  NPO 法人　やまと CAP ひまわり
- ・親子大和の野菜もぎとり＆クッキング
  食のアトリエ
- ・大和市公共基準点成果の活用推進事業
  木村幸吉

○行政提案型
- ・市民活動センターの管理運営事業
  拠点やまと

○行政提案応募型
- ・ふくしの手　全員集合
  NPO 法人　ワーカーズ・コレクティブ想
  パパボラやまと
  社会福祉法人　敬愛会

協働事業として推進しない提案

○市民提案型
- ・大和市災害情報研究会

そこには「まちづくり」の人と仕組みと装置があった

テーマ:子育て。
企画主催・(株)世田谷社＋NPO せたがや子育てネットの「せたがやまちづくりツアー」の「育ちコース」と「居場所コース」に「センター」から[拠点やまと]メンバー2 名が参加しました。

「育ちコース」をレンタサイクルで回ってきました。

02/13(金)＜松村＞

東京・世田谷区内の自主的な幼児教育を展開する保育グループ[あそびの会]にまずは訪問。ここは「もっと外であそぶ」が保育の方針。野外体験と人とのふれあいなどを通して、生きる力と知恵を幼児期から獲得をモットーに活動。[池尻児童館]は子どもたちが料理道具を自分自身で使用できるコーナーや工作室もあり。ここでは乳幼児の保育も可。障害児のための学童保育活動をしている[NPO わんぱくクラブ育成会]ではさまざまな人材が「参加」して教育効果をあげていた。[世田谷ものづくり学校]にも立ち寄った。ここではあらゆる業種のクリエーターに教室を開放し、創業支援の場と異業種間の専門家を核とした「再生プロジェクトの新しいコミュニケーションの場」となっている。そこでの成果は当然「子どもの育ち」に還元されていくと思った。

子どもがあそび学び、大人が集える「居場所」をつくってきていた。 02/20(金)＜小杉＞

大雨の中、いまや全国的にも元祖「プレーパーク」となっている羽根木プレーパークを訪れた。傾斜を利用しての子どもがつくる「小川」はまだ完成途中だったが、折りからの雨で水の蛇行の流れを見る。都会の街中(まちなか)に育つ今の子どもが泥にまみれて、「怪我と弁当は自分もち」のルールと精神で取り掛かれる「あそび」。この場を確保、維持し、運営を担ってきているスタッフの姿を間近に接することができたのは収穫だった。忍耐と誠意、そして次代の社会を担うのは今、目の前にいる子どもだという信念が説明の内容と口調から伝わる。不登校の子どもの居場所「僕んち」の運営者の試みとスタミナ。子育て中の大人の居場所、コミュニティカフェ「ぶりっじ」の無理をしないフレキシブルな発想と仕組み。たくましくも、しなやかな人材が世田谷には豊富にいるのだなあを実感した。そういえば、2004 年 10 月に公布された「大和市自治基本条例」第 11 条(子ども)には「市は、子どもが健やかに育つ環境をつくる責務を有する」とあることを思い出した。

今どきの高校生って、意欲がない？　優しさがない？
いえいえ、意欲だって、優しさだって、粘り気だってあるんです

連続共育マネージメントセミナー　第⑱回は 2/21（土）に
「今どきの高校生事情」～部活・ボランティア活動から見えてくるもの～と題して開催しました。

柏木学園高等学校（大和市消防本部の裏）の教諭である濱谷美代子さん（担当教科は国語、部活動では短歌・書道部の顧問）をゲストにお迎えして、学校生活でのエピソードや高校生が頑張っている姿の写真を交えながら優しさ、謙虚さ、意欲についてお話していただきました。

【やさしさ】
ノートの持ち込みができる試験で自分のノートを転入生にあげ、自分は何も持ち込まずに試験を受け、満点に近い点数をとったTくん。転入したてのクラスメートの不安な気持ちを察しての優しさあふれる行動。

【キューピットは茜ちゃん】
市民活動センターでのボランティア活動がきっかけで、部活の仲間が市民活動センターに集うようになり、そこからどんどん活動が広がっていっている。キューピットは茜ちゃん。

【意欲】
老人ホームで詩吟を披露したら、お年寄りが涙を流して喜んでくれたことに感激。また行ってみよう、という意欲が湧いたAくん。

【こころ遣い】
入院中の濱谷先生を心配して毎日のように病院へお見舞いにきた卒業生の悟くん・真弥くん。退院の日は病院に車でお迎えに来て自宅まで送り届け、食べることに困らないようにと冷蔵庫の中に食料をたっぷり買い足して帰っていった。在校中はやんちゃだった教え子が成長してる姿に感動。

生徒と共に過ごすなかで、生徒ひとりひとりの個性を理解し、学校生活が充実するようさりげない手助けしている濱谷先生。これが生徒のやる気を育てている。
「高校生の優しさと頼もしさ」を実感できたひと時でした。

イルカすら・ショーでお金を稼ぐのに
僕は保護者に依存している
『作品に手をふれないでください』と
書いてなくても触れてはいけない
生きてゆく上でもっとも重要な
ものを得るため窓をひらいた
かわいらしいひいばあちゃんの一世紀
明治・大正・昭和・平成

短歌から見える“今どきの高校生”

音、食、人を通じて日本人と外国人が「やまと」で共に暮らしていることを感じる

3/22(日)開催　第４回やまと国際交流フェスティバルに［センター］も参加しました

市民活動センターをアピール
大和市に在住する外国籍の方々に「センター」の存在をわかりやすく伝えるために“やさしいことば”でアピールしました。
“やさしいことば”については、樋口由美子さんを講師にお招きして、2／23（月）に事前学習会を開催しました。

ご協力いただいた市民活動団体、個人の皆さま
- エコ布ぞうりづくり
  鈴木澄子さん他のみなさん
  （生涯学習ボランティア講師の会）
- 竹ぽっくりづくり
  久田緑地くらぶから竹の提供
  製作協力はサポーターの間瀬さん
- 人形劇の上演
  柏木学園高等学校　短歌・書道部
  チュー劇団
- やさしい日本語で活動紹介
  大和地区日中友好協会
  日本語教室「かたつむりの会」
  いきいきフォーラム2010
- チラシ作成指導他
  樋口由美子さん（逗子災害ボランティアネットワーク
  ボランティアコーディネーター）

「竹ぽっくり」と「布ぞうり」で“日本”をアピール
「竹ぽっくり」は日本古来から伝わる子どものあそびで、竹に乗ってバランスをとらないと進めない。パカポコ歩くといつもの景色が違って見える。
布を裂いて編むぞうりはまさに「エコ布ぞうり」。
足の指がしっかり動いて、脳を刺激するので健康にもよいのです。

【大和市民活動センターある日ある時】
３月２日（月）
高校生 3 人が視覚障害者の卓球「サウンド・テーブルテニス」を見学。アイマスクをして卓球に挑戦。ボール拾いや後片付けを手伝い、おやつもいっしょにいただいて、会話も弾み「また来てね」の言葉に「また来ま～す」と心も軽く、帰ってきました。これもボランティアです。

＊サウンド・テーブルテニス
視覚障害者の卓球で、ボールの中に小さい鈴が 3 個入っていて、台の上を転がる音を頼りに行う卓球。ボールが落ちたら拾いに行くボランティアが必要です。「サウンド・テーブルテニスクラブ」のみなさんが、4/14(火)[FM やまと]に出演します。聴いてください。

やまとっこ☆みつけた　FMやまと　77.1 MHz

『やまとっこ☆みつけた』毎週(火)　9:05 ⇒ 9:25a.m.

やまとっこ☆みつけた★

（第 62 回から第 66 回までの出演団体）

第 62 回 2/27(火) ～あせらず、いそがず、ゆっくりと～
＜かたつむりの会＞

学習者は英語圏の方、アジア圏の方などいろいろな外国の方がいます。もし共通の言語で教えるのであれば、私たちはいろいろな言葉を話さなければいけないのですが、私たちは日本語で絵カード、実物を通じて一つ一つ積み上げていく、そういう教え方をしています。日本語学習の支援を第1の目標にして、交流する中でお互いに理解を深めています。

第 63 回 2/24(火) ～犬・猫の家族さがし～
＜パクスやまと＞

「パクス」とはラテン語で平和と言う意味。犬や猫たち、人間みんなが平和に暮らせることを目ざして会の名前をつけました。里親会では里親希望の人、そうでない人が自由に犬や猫とふれあう場をつくっています。ここから可哀想な犬や猫があたたかい家庭に迎えられていくのです。1匹でも多くの犬や猫が里親と出会えるよう活動しています。

第 64 回 3/3(火)～俳句は美しい日本語さがし～
＜あざみ句会＞

俳句は景色を絵ではなく「言葉」にかえて、表現豊かに日本語の素晴らしさを伝える。「美しい日本語さがし」をしながら俳句を作るこt、鑑賞することの楽しさを話した後、出演者３人が春を題材にした句を披露しました。刺激されて、パーソナリティーのジョニーさんが即興で一句詠みました。

ひなまつり　桃はわが子の　お尻かな

第 65 回 3/10(火) ～人に感謝されて～
＜NPO 法人ワーカーズ・コレクティブケアびーくる＞

外出困難な人が外出したいとき、単に車で目的地までお連れするのではなく、身だしなみのお手伝いから始まる介助サービス。病院の帰りにお買物をしたり、ちょっと遠回りしてお花見をしたりと、利用者さんの気持ちに添った活動をしている。そこに感謝が生まれ、信頼関係が築かれていく。

第 66 回 3/17(火) ～IT 技術を活用して～
＜アダプティブテクノロジー＞

「アダプティブテクノロジー」とは支援技術という意味です。読み書きに障害を持つ子どものためにルビを振っている母親からの相談がきっかけで結成しました。代表の鳥原さんは視覚障害があり、家の中でも外出する時も盲導犬ホープといっしょです。ホープはスタジオの中でも鳥原さんの足元で放送が終わるまでピッタリ寄り添っていました。

＊第 67 回の相模友の会は次号でお知らせします。

ラジオを聴いたら感想を FAX、メールで[FMやまと]へ
FAX　:046-265-2777
E-mail　:morning@fmyamato.co.jp

＜これからの出演団体＞
第 68 回 3/31(火)柏木学園高等学校生徒
第 69 回 4/7 (火)ディ南林間なんてん
第 70 回 4/14(火)サウンド・テーブルテニスクラブ
第 71 回 4/21(火)桜ヶ丘町おこし実行委員会

やまとっこ☆みつけた ★ やまとっこ☆みつけた ★ やまとっこ☆みつけた ★やまとっこ☆みつけた ★やまとっこ☆

熱血編集後記

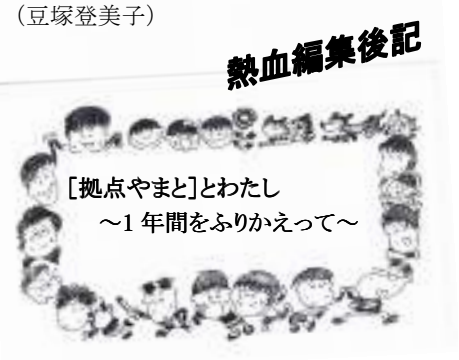
協働事業検証中！と不安なスタートでしたが、協働の原則は崩れず、市と連携を密にした事業を展開することができました。鬼豆ちゃん、ありがとう。(関根孝子)

1942 年生まれゆえ、小生既に高齢者前期のゾーンにあり。最近 92 年生まれの高校生が「センター」にいるのを認む。あとは頼むね。(小杉皓男)

スタッフとして一年経ったが、未だ覚えることが多い。センターメンバー皆、活動のスキルアップ中。”共育”の仲間、私も進歩に努。(浅見正明)

若者のボランティア活動に対する気持ちの優しさと明るさに刺激され、ボランティア活動のあり方を改めて考えさせられた１年でした。(櫻井貞代)

自分たちの手で作り上げることの大変さと楽しさを共有できるメンバーとの出会いに感謝、感謝です。
(豆塚登美子)



センターの運営管理の変更に伴い、スタッフとして従事することになったが、業務に不慣れのことが多く、戸惑いながらの 1 ヶ年であった。(松村襄)

サポーターとして時々センターに寄ってから家に帰る事があります。先日、お隣の商工会議所での集会を忘れ、センターから家に戻ってしまいました♪(望月則男)

市民活動センターのWebサイトは昨年 7 月にリニューアルするとともに新鮮な情報をお届けするよう心がけてまいりましたが、いかがでしたでしょうか？
今年度もセンターWebサイトにお付き合いいただきありがとうございました。(中山みゆき)

様々な分野でのイキイキとした活動が伝わってきた[FM やまと]出演。
”人のつながり”が心地よい地域社会をつくっていると実感。魅力的な人との出会いが続いています。(石川美恵子)

＊今月の用紙は“桜色”を選びました。お届けする頃、桜前線はどのあたりでしょうか？

「あの手　この手」第 26 号　発行日・2009 年 3 月 30 日　　**発行・　大和市民活動センター　拠点やまと**

大和市民活動センター　＜開館・月～土　9:00～18:00＞
〒242－0021　大和市中央1－5－1
TEL:046－260－2586　　FAX:046－205－5788
e-mail:yamato@ar.wakwak.com
URL: **www.kyodounokyoten.com　（←新しくなりました）**